



花のようなシンプルな生き方
 ～自然に委ねる大切さ～

高度経済成長の中

で、我々の日々の暮らしは複雑になっている。もっとシンプルに生活出来ないかと考える。親しい友人がTVを捨てて予想以上にシ

ンプルな生活になったという。確かに必要以上の情報に振りまわされて

いる傾向がある。誰もが総理大臣になるわけでもないし、大切なことは一人々々が豊かに生活することだ。

情報に踊らされ、必要の高級車を求める傾向がある。私にはそ

れようとも平凡で結

構。周囲の人に迷惑を

かけず、庭の花のように自らは何も求めないシンプルさにひかれる。こうして考えていくと、シンプル、簡素な生活の中には我々が思っている以上に豊かさ

が秘められていると思う。最近、賞味期限切れが近い食品や貴い物を利用して、恵まれない子どもたちのための「子ども食堂」が各地で行われるようになってきた。こうしたことをボランティアで

する人たちもシンプルライフを大切にしている人だと思ふ。自分などは理屈が多く、シンプルライフと言

いにくい。シンプルライフに見得は不要、求められるのは、その純粋さであるまいか。

そもそも、シンプルな生活に関心をもち始めたのは、禅の高僧の話を読

んで聞いたから



開花直前のカサブランカ

「もう2、3日待つて下さいね。ほとんど準備が出来るのですが」と返事を

する。先日、東京にいる娘の誕生日に合わせるように開花

した。妻が「カサブランカばかり可愛がらず、近くの銀梅両も小さいけど花をつけていますよ」という。その近くの2

層以上に成長した立葵も隣りのタイタンビカスと共に、「僕たちにも関心を向けて」とい

う。自然の中の花とともにあるように思える。花は自らは何も言わない。すべてを神に委ねているように見える。ただ、相手と丁寧につきあ

うことの中にシンプルな生き方があるのだ。

実用的で内装もシンプルな軽四輪車



咲き競う立葵とタイタンビカス